

第 70 回 供用期間中検査検討会 議事録

1. 日 時 : 2020 年 12 月 9 日 (水) 13:30~15:00

2. 場 所 : アットビジネスセンター東京駅八重洲通り 602 号室(Web 会議併用)

3. 出席者(順不同, 敬称略)

出席委員 : 笹原主査 (NDI リサーチ), 穴田副主査(東京電力 HD),
松永副主査(関西電力), 生田(中国電力),
江原(日立 GE ニュークリア・エナジー), 大岡 (日本非破壊検査協会),
大竹 (東芝エネルギーシステムズ), 大谷(日立 GE ニュークリア・エナジー),
大塚 (東芝エネルギーシステムズ), 小川 (北海道電力),
勝又 (原子力エンジニアリング), 小船井 (非破壊検査),
東海林(電力中央研究所), 須田(三菱重工業),
田中 (電源開発), 西川 (北陸電力), 新田 (富士電機),
長谷川(発電設備技術検査協会), 濱野 (IHI),
平澤(発電設備技術検査協会), 藤中 (日本原子力発電),
古屋(日立 GE ニュークリア・エナジー), 松浦 (四国電力),
松田(発電設備技術検査協会), 三隅 (九州電力) (計25名)

代理出席 : (なし) (計0名)

常時参加者 : 関(三菱重工業), 高林 (東芝検査ソリューションズ) (計2名)

欠席委員 : 井上 (日本非破壊検査協会), 残間 (東北電力),
杉江(原子力安全推進協会), 中谷 (中部電力) (計4名)

事務局 : 景浦, 境, 田邊(日本電気協会) (計3名)

4. 配付資料

資料 No.70-0 議事次第
資料 No.70-1 委員名簿
資料 No.70-2 第 69 回 供用期間中検査検討会 議事録 (案)
資料 No.70-3 これまでの経緯
資料 No.70-4-1 構造分科会 No.59-審 1_第 1 回書面審議 結果通知_対応記載_r1
資料 No.70-4-2 構造分科会 No.60-審 1_第 2 回書面審議 結果通知_対応記載_r01
資料 No.70-4-3 JEAC4207-202X 本文 新旧対比表
(構造分科会 No.60-審 1_第 2 回書面審議版)
資料 No.70-4-4 JEAC4207-202X 附属書 新旧対比表
(構造分科会 No.60-審 1_第 2 回書面審議版)
資料 No.70-5-1 規制庁技術評価 資料 1-5 への回答 (JEAC4207-2016)
資料 No.70-5-2 規制庁技術評価 参考資料 1-2 への回答 (JEAG4207-2016) _r05
資料 No.70-5-3 規制庁技術評価 参考資料 2-1 への回答 (JEAG4207-2016) _r02
資料 No.70-5-4 規制庁技術評価 参考資料 3-1 への回答 (JEAC4207-2016) _フォーマット
資料 No.70-5-5 規制庁技術評価 懸念事項
資料 No.70-6 渦電流探傷試験、超音波探傷試験及び漏えい率試験に係る規格の

5. 議 事

事務局より、本検討会にて私的独占の禁止並びに公正取引の確保に関する法律及び諸外国の競争法に抵触する行為を行わないことを確認の後、議事が進められた。

(1) 代理出席者の承認、オブザーバ等の確認、会議定足数、配付資料の確認について

出席委員数は代理委員を含めて22名であり、決議に必要な「委員総数の3分の2以上の出席(17名以上)」を満たしていることが確認された。また、常時参加者2名(新規)の紹介があり、主査の承認を得た。続けて、配付資料の確認があった。

(2) 前回検討会議事録(案)の確認

事務局より資料 No.70-2 に基づき、前回検討会の議事録(案)の説明があり、正式議事録とすることについて決議を行い、全員賛成で承認された。

(3) JEAC4207 について【報告】

事務局より、JEAC4207-20XX の審議状況および JEAC4207-2016 技術評価対応の状況についての報告があった。

1) JEAC4207-20XX 改定の作業状況および JEAC4207-2016 技術評価対応について

主査の指名により委員より、資料 No.70-3 に基づき、前回、第69回 ISI 検討会(2020年1月14日)以降の対応状況についての説明があった。

主な意見・コメントは下記のとおり。

- ・本日の ISI 検討会の開催主旨としては、JEAC4207 の改定案を示して審議頂くというよりも、前回の ISI 検討会以降の対応経緯と JEAC4207 改定の今後の進め方について話をするところにある。
- ・当初は今年1月に改定案を取り纏めて、今年中ごろには2020版を発刊出来るかなと思っていたが、その後改定案に対してコメントが付き、「「欠陥」をどうするのか」「判定は JEAC4207 ではなく、維持規格でやるべきではないのか」というコメントが付き、さらに技術評価対応にあたっては NRA より JEAC4207 の記載内容に対して質問事項が多く来ており、その中には規格に書いた方がよいと思われる事項も含まれている。
- ・その状況を踏まえて、JEAC4207 の改定案を9月の原子力規格委員会に上程することは見送り、NRA との対応がひと段落して(コメントが出揃ってから)から、再び JEAC4207 の改定作業を進めた方がよいのではないかという判断を下したという経緯がある。
- ・NRA との会合はあと1回位実施すれば、だいたい纏まるのではないかという感触を持っている。

2) JEAC4207-202X 改定案について

委員より、資料 No.70-4-1~資料 No.70-4-4 に基づき、JEAC4207 改定案の審議内容（書面審議時におけるコメント等）についての説明があった。

主な説明は下記のとおり。

- ・委員の方々から頂いたコメントのうち、主なものとして以下を紹介。
 - ▶ 「きず(Flaw)」と「欠陥(Defect)」という言葉の区分けを明確にした方がよい
 - ▶ 評価要エコーの中で「きずエコー」と「欠陥エコー」に分類しているが整理した方がよい
 - ▶ 「判定」と「評価」が出て来るが何か違うのか？明確にした方がよいのではないか
- ・上記のコメントが出たため、「編集上の修正」の範疇を超えると判断し、再書面投票を行っている。そこで出たコメントについては、まだ分科会に報告していない状態である。
- ・規格委員会への上程を見送った経緯に関しては、NRA から提示された、技術評価対象規格に対して確認依頼の件がある。多くのコメントが出されており、その中身をみると、そもそも我々の意図がうまく伝わっていないと考えられるものがある。作業としては、参考資料 1-2 まで作った段階にある。

主な意見・コメントは下記のとおり。
(特になし)

3) JEAC4207-2016 に対する規制庁による技術評価対応の状況について

委員より、資料 No.70-5-1~資料 No.70-5-4 に基づき、JEAC4207-2016 技術評価対応の状況について説明があった。特に、NRA からの説明を依頼されている事項について、主な質問の内容と対応状況についての説明があった。

主な説明は下記のとおり。

- ・NRA から提示された質問というか説明依頼のシリーズになる。
- ・資料 No.70-5-1 は、比較的重めの内容で議論が必要と思われるものになる。先方から提示された質問一覧に対して、各々の質問と回答を記載した資料となっている。
- ・その他資料 No.70-5-2~資料 No.70-5-3 についても記載内容の概要についての説明があった。

主な意見・コメントは下記のとおり。

- ・ポイントとしては、構造分科会の規格として、最終的にどこまで傷の評価をやるのかであり、JEAC4207 の規格側でやるのか、それとももっと上位の規格でやるのかという点である。
- ・ただし実際の内容としては、実体としては変わっていない、ただ、言葉の上ではどうあるかという点だととらえている。
- ・NRA との話でのポイントは、例えば溶接部を透過した探傷について、実際の状態を模擬しており、信用できるものになっているのか確認したいという意向であり、そのための説明を求めているものであると考えている。
- ・資料 No.70-5-2, No.70-5-3 にある質問は、例えば超音波探傷に関する質問が色々

記載されているが、NRAと話している段階で、例えばノッチの高さの話があったが、いわゆる規制する側はこう考えるから、規格としてはこう書いた方がよいのではというような内容になっている。

- ・ISI 検討会の中でNRAも入って対応出来ればよいが、そういうわけにもいかないもので、そういう意図を捉えて、ここはもう一度、「こういう風に変えたい」というコメントに対し、今の段階で出来るだけ規格に盛り込んでおき、その上で、上程に進んでいきたいと考えている。

- 4) JEAC4207-2016 に対する規制庁による技術評価対応の状況における懸念事項について
委員より、資料 No.70-5-5 に基づき、NRA より電事連/ATENA に対し、JEAC4207-2016 の技術評価に関連した問い合わせがあり、その内容についての紹介があった。
(本件は、本来 ISI 検討会にて審議する範疇の内容ではないため、資料の記載内容については委員への紹介とした。)

主なご意見・コメントは下記のとおり。

- ・特になし。

- 5) JEAC4207-2016 に対する規制庁による技術評価に関する今後の対応について

事務局より、資料 No.70-6 及び資料 No.70-7 に基づき、現在の技術評価の対応状況(電気協会関連の会議体での対応状況、第3回のNRAとの会合に関する対応状況)についての説明があった。

主な意見・コメントは下記のとおり。

主査より下記の提案があり、了承された。

- ・今後の対応についてご説明させて頂く。今後ともNRAとの対応を進めてゆき、その次に、現在保留になっているJEAC4207改定案の構造分科会/規格委員会への上程を進める事になる。
- ・今後のNRAとの対応を踏まえて、必要に応じJEAC4207の改定案を修正する可能性が生じると認識しているが、現在のところ、見込みとしては技術的に大きな変更点はない模様。ただし今後の対応内容によっては、分科会への上程の前に、検討会での再審議が必要になる場合も考えられる。その場合、構造分科会へどのように挙げていくのかについては、今後分科会主査/幹事とも相談しながら進めていきたいと考えている。

(4) その他

- 1) 2021 年度活動計画の作成依頼について

事務局より、来年度の活動計画の策定にあたり、検討会へ資料の作成依頼を予定している事が紹介され、具体的な依頼については、別途メールにて連絡する旨の説明があった。

主な意見・コメントは下記のとおり。

- ・特になし。

2) 次回の供用期間中検査検討会の開催予定

次回の検討会は、今後の対応状況によるので、別途日程を調整させて頂きたい。

以 上